

# 宮柎二記念館だより

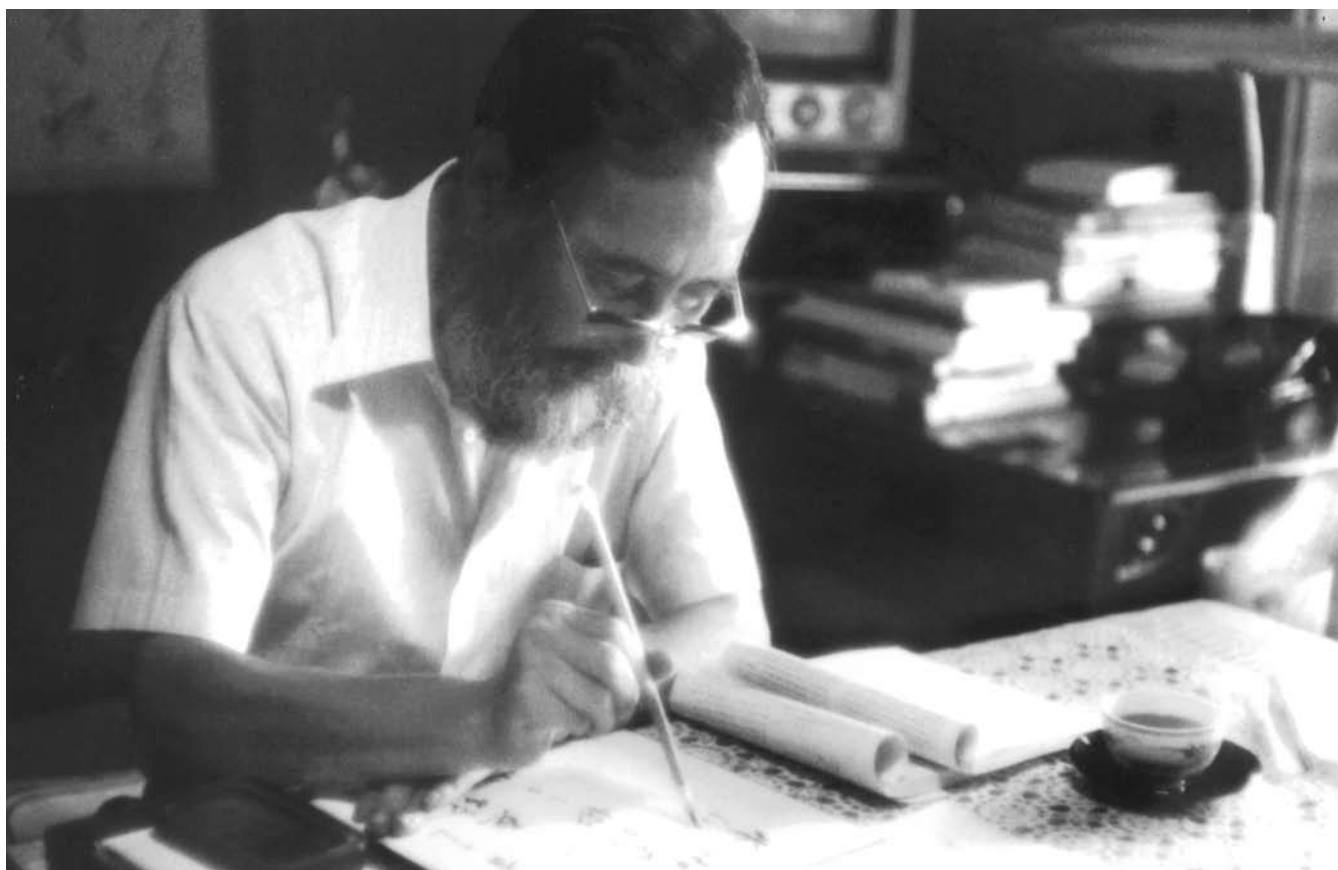
2016.3.25

第 44 号

発行 宮柎二記念館

TEL・FAX

025-794-3800



## できるところから実行を

例年になく降雪が少ないまま春を迎えることができそうだ。

四月の短歌大会、企画展の案内発送から五月、企画展オープン、十一月の短歌大会当日までの八ヶ月は緊張の日が続く。この間、毎月一回の短歌教室と七月には短歌セミナー、八月のジュニア短歌教室、九月、市内小中学校への短歌出前講座など…、おおまかに当館の一年を追ってみた。

今年度の企画展は戦後七十年を記念して「山西省と柎二」。おかげさまで多くの方から来館いただくことができた。これを継続させるためにも地道に進んでいかなければ、と考えている。

特に、地域の皆様から知っていたただかないことには、来館者の増は望めない。このための方策…皆さまの知恵をお借りしたい。

公立であることから制約もあるが、一つでも良い、あらためるべきことを、できることから見える形で実行していかなければならない！

今年、柎二没後三十年、これまでの歩みをたどるとともに、これからどう進んでゆくのか…皆さまからの提案をお待ちします。

雪の季節から躍動する春へ…魚沼の春はすばらしい。皆さまから、やがて来る新緑の魚沼を堪能いただくためにも、ぜひ記念館に運んでいただきたいものと願っている。

# 報告

## 第二十一回宮柵二記念館全国短歌大会

# 一三、六六七首の応募

### 【一般の部】

最優秀賞

草の茎千切りし籤で作業割り決めて土工等小屋を出でゆく

大河内卓之

選者賞（渡 英子選）

潮満つる朝の河口の橋をゆく人ら光れりいろくづのごと

有中 房子

選者賞（宮里信輝選）

あくたれの男の子に追はれ飛びたてる鳩が下げゆくくれなるの足

岡田 万樹

### 【ジュニア部門（小学生の部）】

最優秀賞

夕やけにひこうき雲がとけていくたぶん明日はすなおになれる

吉田 陽菜

選者賞（渡 英子選）

必ずや帰ってやるぞもうダッシュホームベースがすぐそこにある

森山 旺河

選者賞（宮里信輝選）

上見たら青い画用紙なに書こうクジラといっしょに泳いでみたい

吉原 芳歌

### 【ジュニア部門（中学生の部）】

選者賞（渡 英子選）

君乗せて走る自転車風切つてああこの時が続けばいいのに

藤井 未来

選者賞（宮里信輝選）

水たまりそつとのぞいて見てみれば地が空になり雨昇りいる

小谷 萌絵

### 【ジュニア部門（高校生の部）】

最優秀賞

雨上がり大きな虹が見えたとき母から電話「空みてごらん」

星 瑞希

選者賞（渡 英子選）

青々としげるぶどうの葉をわけて果実にのぼす私の腕かひな

山本 滯

選者賞（宮里信輝選）

九条を守りたい意志胸に秘め露草が咲く十七の夏

坂田理佳子

## 第21回 短歌大会 応募状況

区分	応募作品数	応募者数
一般の部	992首	424人
ジュニアの部	12,675首	6,569人
（小学生）	3,407首	1,767人
（中学生）	4,424首	2,306人
（高校生）	4,844首	2,496人
総数	13,667首	6,993人

第二十一回全国短歌大会は、選者に渡英子先生（短歌人）、宮里信輝先生（コスモス短歌会）をお迎えして行いました。総数一三、六六七首は、昨年を上回る応募で、特にジュニア部門の増加傾向は続いています。平成二十七年十一月十四日には、堀之内公民館を会場に三百人を超える参加者をお迎えして、盛大な大会を開催することができました。

一日から応募受付を開始し、一般の部は七月三十一日、ジュニア部門は九月六日が締め切りの予定です。なお、表彰式については、今回同様開催日を土曜日として計画しています。

今、短歌に注目が集まる機会が増えてきています。今回、学校賞を受賞した東京学館新潟では、短歌の学習にも力を入れており、今年の歌会始で、同校の生徒が最年少として選に入るなど、大きな成果も上げています。

こういった状況のなか、宮柵二記念館短歌大会も、大きな大会にしていきたいと考えています。大勢の皆様参加をお待ちしています。



【選者のことば】

## 短歌のちから

宮里 信輝

第二十一回宮柁二記念館全国短歌大会の選者をつとめさせていただきます、ありがとうございます。

私は、二十代の初めころ岩波文庫の『宮柁二歌集』を読み、「楓のプラペラ型の実を見れば南風うけつつそよがぬぞなき」「花のやうに日暮の鳥屋に眠りゐる鶏を姉とわれと見てゐつ」「夜に聴けば矢振間川の音の魚野川にそそく音きこゆ」「月光の白く射し染む鉄の扉にふかく彫られて何の花ぞも」などの歌に、青春時の言い難いころをうるおい癒やされ、宮柁二主宰の「コスモス短歌会」に入会しました。以後四十年日々勉強しております。ますます短歌のちから、その世界のふかさを

ひろさにおどろかさされる毎日です。そのようななかで、今回の選をさせていただきます、小学生、中学生、高校生、一般の方々の多数の歌を通し、そのさまざまなところに一度に向かい得たことは、貴重な勉強、体験になりました。

短歌大会は今日本中にたくさんありますが、小、中、高のジュニア部門がこんなにたくさん集まる短歌大会はなく、たいへん貴重です。宮柁二先生の歌のちからだと思えます。夏休みの課題で苦しんで作っている歌が多くありましたが、必ずこれからのちからになると思います。一般の部九九二首、ジュニア部門の小学生の部三四〇七首、中学生の部

四四二四首、高校生の部四八四四首、計一三六六七首の膨大な短歌、全力で拝見いたしました。

結果はこのようになりましたが、大変な厳選です。参考にしていただき、ますます短歌に親しみ、詠んで下さい。

短歌は年齢、男女、職業等を問わず、万人がその自分独自のところを表現できる、魔法の詩型で、求めれば求めるほど奥深く、そのちから、世界は限りがありません。

— 「入選作品集」より再掲

### 宮里信輝 (みやさと のぶてる)

1949年鹿児島県西之表市生まれ。神戸を経て、現在神奈川県在住。  
1970年、コスモス短歌会入会。  
1973年、第10回桐の花賞受賞。  
1992年、第38回〇先生賞、第39回コスモス賞受賞。  
2011年、第33回随筆賞受賞。  
歌集に『青世界』、『紫陽花時間』、『花迷宮』、『デーモンの心臓』。  
現在「コスモス」選者、編集委員。コスモス短歌会神奈川支部長。現代歌人協会々員。厚木市森林づくりボランティア協会会長。



【選者のことば】

## かけがいのない時間を残す

渡 英子

宮柁二は「わが愛する歌人」の一人として作品に親しんでいました。が、柁二の師である北原白秋論を書き始めたことで、一層私の大切な歌びとなりしました。南国の柳川生まれで光明の詩人と呼ばれた白秋は、北国出身の柁二に「君の歌は瘤の樹をさするようだ」と言いながら、自分とは異なる詩質を持つ弟子を愛しました。

異質の才能を認めあうことで、白秋と柁二は稀有の師弟となりました。「多磨」から「コスモス」へと、戦前から現在に続く詩歌のあたらしい潮流が生まれたのです。

数年前のことですが、堀之内の宮柁二記念館を訪ね、そのまま自動車

を走らせて富山の宇奈月温泉で一泊したとき、ホテル前の公園で宮柁二と英子夫妻の歌を刻んだ碑に出会いました。戦場から帰還した柁二が妻と過ごしたゆかりから建てられた歌碑の前で、不思議な感動をおぼえたことをはつきりと思ひ出します。

こうしたご縁がありましたので、宮柁二の名を冠する全国短歌大会の選者をつとめさせて頂いたのは嬉しいことでした。

一般の部では、戦後七十年という節目にあたることから戦時を回想した歌が心に残りました。他にも実生活や実体験に裏打ちされた秀歌がたくさんあり、迷いながらの選歌でした。どの歌にも真摯に作品に取り組

む姿勢があり、この短歌大会の出詠者の方々の短歌への思いに胸を打たれました。

ジュニア部門は、小学生から高校生までのみずみずしい時間が短歌に託されていて、楽しく選歌させて頂きました。夏休みの祭りや花火大会、部活、宿題などテーマが同じものが多いのはやむを得ませんが、感動を自分だけの言葉で短歌に残して頂けたらと思えました。たいへんなことですが、かけがえない時間を言葉に刻むために、短歌との出会いを大切にして頂けることを心からお願いしたいと思います。

— 「入選作品集」より再掲

### 渡 英子 (わたひでこ)

1952年、東京生まれ。早稲田大学卒。配偶者の転勤により日本各地で生活し、三十代後半に短歌を始める。現在、短歌人同人。現代歌人協会理事。日本文芸家協会々員。日本歌人クラブ会員。早稲田大学エクステンションセンター講師。NHK文化センター講師。  
「アクトレス」により歌壇賞。歌集に『みづを搬ぶ』(現代歌人協会賞、現代短歌新人賞)、『レキオ琉球』『夜の桃』、最新歌集に『龍を眠らす』。  
歌書に『詩歌の琉球』(前川佐美雄特別賞)、『メロディアの笛』(日本歌人クラブ評論賞)。



戦後七〇年の企画展を振り返って

## 戦争の記憶を再確認した年に

資料からうかがえる戦争の姿

平成二十七年（二〇一五年）、戦後七〇年にちなみ、宮柁二記念館では「山西省と柁二」展を開催しました。いくつかのマスコミにも取り上げていただき、多くのお客様をお迎えすることができました。

七〇年という長い年月が経過し、



出征の記念品や復員時の軍服など、戦争にまつわる資料を柁二は保管していました。

戦争のことを直接知っている世代は減ってしまいました。そんななか、

柁二が残した戦争関連の資料、歌集『山西省』に収録された歌や、戦地から瀧口英子（宮英子）へ宛てた手紙などの展示をおして、悲惨な戦争の姿をうかがい知ることができたと感じています。

これからも発信を

八月のある日、新聞の紹介記事を読まれた小千谷市在住の方から、宮柁二の山西省での足取りについて、詳しく聞きたいという申し出をいただきました。年離れた父親が山西省に出征していたとのこと、少しでも父親のことを知りたいという気持ちから、息子さん、娘さんが当館に照会されたのです。

お会いして柁二の駐屯地などを説明すると、いくつかの地名について「わかる、わかる」と言われ、「福島

出身の戦友が俳句をやっていて、戦場でも折りを見ては、しきりにメモを取っていた」というお話も聞かせていただきました。息子さん、娘さんともにはじめて聞く話が多かったとのことで、感謝をしていただきました。

後日、娘さんからお礼のお便りをいただきました。このような機会を提供できたことはよかったです。その手紙には、その日の夜、父親がうなされていた、とも書かれてありました。説明の仕方に問題があったのかと反省しましたが、あらためて、当事者の方々には消し去ることのできない傷があることがわかりました。

宮柁二も戦争の傷に苦しんでいたと思います。一方で、戦争に関わる資料はずっと保管していました。そこには二度と戦争の悲劇を繰り返してはならないという決意があったのではないのでしょうか。この一年をとおし、我々は柁二の思いを引き継ぎ、戦争を風化させないように発信をしていくことが大切だと、認識を新たにしました。

## 新資料紹介

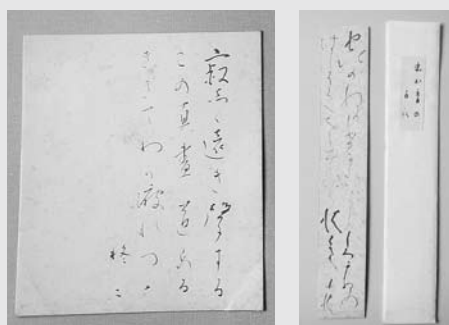
平成27年度も貴重な資料を寄贈いただきました。深く感謝申し上げます。今後も大切に保存させていただきます。

### 中山礼治弥彦歌碑下書き

コスモス歌人の摩尼久晴さんから、中山礼治の書を寄贈いただきました。書かれている歌は、弥彦神社にある柁二との兄弟歌碑に刻まれたもの下書きで、貴重な資料といえます。

### 今村寛所蔵資料

宮柁二が若い頃から親しかった歌人・今村寛が所蔵していた資料を寄贈いただきました。柁二の書のほか、北原白秋の短冊や父・宮保治の俳句など、貴重な資料が見つかりました。



# 平成27年度 事業報告

今年度は、戦後70年にちなんだ企画展、第21回となる短歌大会などを中心に、各種の事業を実施しました。

## 27年度実施事業について

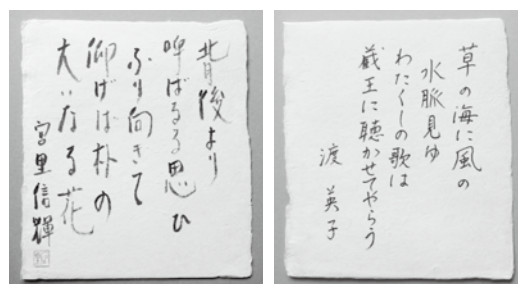
- ◎5月16日  
戦後70年記念企画展  
「山西省と柊二」展  
オープンセレモニー（テープカット）  
記念講演「歌うまきより文うまきより」  
講師 橋 芳園氏
  - ◎6月13日～6月28日  
酒井昭輝・健太 絵画二人展
  - ◎7月4日～8月23日  
第20回全国短歌大会 ジュニア部門特別賞展
  - ◎7月26日  
講演会「『多く夜の歌』をめぐる」  
講師 岡崎康行氏
  - ◎8月21日  
ジュニア短歌教室 講師 短歌教室司会者
  - ◎8月29日～9月13日  
星 義廣 写真展
  - ◎11月14日  
第21回宮柊二記念館全国短歌大会  
選者講評 渡 英子氏 宮里信輝氏
  - ◎11月14日～12月18日  
短歌大会選者・特別賞受賞者自筆色紙展
  - ◎1月17日  
短歌セミナー  
講演会「柊二と戦争を考える－『山西省』を読む」  
講師 田宮朋子氏
- 市内小中学校3校で短歌出前教室を行いました。
- ◎7月4日・7日 守門中学校（1～3年生）
  - ◎9月2日・3日 堀之内小学校（4～6年生）
  - ◎9月3日 広神西小学校（6年生）

### 短歌セミナー 歌集『山西省』をテーマに



1月17日、歌人の田宮朋子先生を迎え「柊二と戦争を考える－『山西省』を読む」と題して短歌セミナーを開催しました。作品から見えてくる戦時中の様子を30名の参加者は聞き入っていました。

### 第21回短歌大会特別賞受賞者展



第21回の選者・渡英子先生、宮里信輝先生の作品の色紙をはじめ、今大会で特別賞を受賞された皆様の自筆作品を、11月14日から12月18日まで、一階ホールで展示させていただきました。

平成二十八年年度

## 宮柊二記念館 事業計画

企画展示では、宮柊二の没後三〇年にあたり、柊二の想いを引き継ぐコスモスの歌人達の作品をテーマに行う予定です。また全国短歌大会をはじめ、多くの方々に当館を知ってもらえるよう活動を展開します。

### ◎平成二十八年年度 企画展示

- ・テーマ 「コスモスにどう 歌人たち」
- ・期間 五月十四日(土)

### ◎第22回全国短歌大会

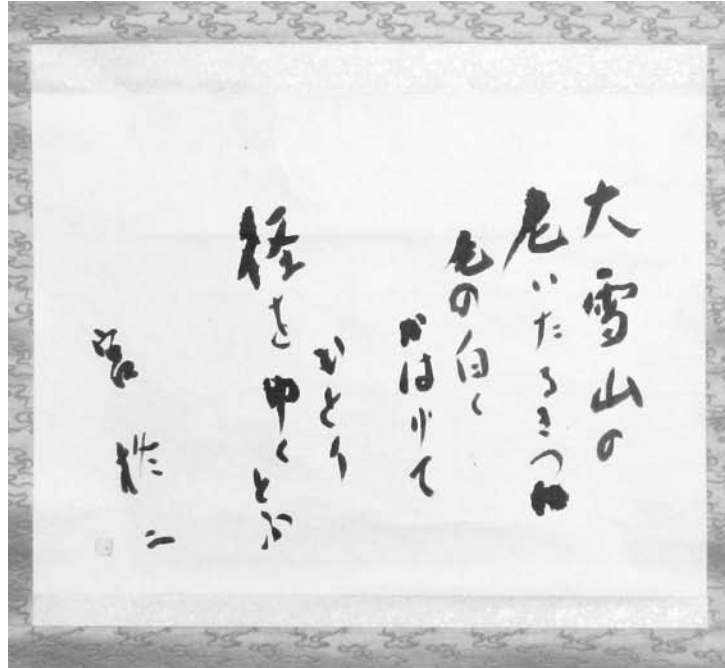
- ・募集開始 五月一日(日)
- ・締め切り 一般の部 七月三十一日(日)  
ジュニアの部 九月六日(火)
- ・内容 作品は二首 一、〇〇〇円  
海外からの応募、ジュニア部門（高校生以下）は無料。

### 【短歌大会】(表彰式)

- ・日時 十一月十二日(土)
- ・会場 堀之内公民館  
(魚沼市堀之内一三〇)

この他にも、「記念館短歌教室」や「ジュニア短歌教室」など各種事業を行っていく予定です。

大雪山の老いたるきつね  
 毛の白くかはりて  
 ひとり<sup>みち</sup>徑をゆくときふ



## 宮柁二記念館収蔵資料紹介 No. 44

昭和52年に北海道を訪れたときに、大雪山のキツネの話を聞いて詠まれた歌です。孤独な老キツネに、柁二は自分の姿を重ねたといわれています。柁二が没して30年、柁二が刻んだ足跡は今も多くの歌人たちの道しるべとなっています。

### 例年に無い少雪

除雪作業も少なく…

例年、2mを超える雪が積もる魚沼の冬ですが、12月の降り始めも遅く、結果として降雪量の少ない年となりました。魚沼では毎年1月から2月にかけて除雪作業に追われます。当館の入口付近も、毎朝片付けられないのが日課ですが、今年はほとんど苦労をしませんでした。ただ、雪が降るのが当たり前のこの地にとって、少雪は必ずしもいいことばかりとは言えません。当地は雪に関わる仕事も多いですし、また、豊富な雪解け水によって育まれる農作物が今年はどうなるのか、気がかりといえます。気候は人間の思うようになりませんが、大きく変わってしまふのは心配なことでもありません。



昨年の3月上旬は2m以上ありましたが、今年はすでに50cm以下に。

### 「友の会」からのお知らせ

宮柁二記念館では、会員を募集しています。年会費は1,000円です。くわしいことは、宮柁二記念館へお問合せください。

宮柁二記念館だより 第44号

発行 2016. 3. 25

問合せ 宮柁二記念館 (〒949-7413 新潟県魚沼市堀之内117-6) TEL・FAX 025-794-3800

メール miya-museum@city.uonuma.niigata.jp ホームページ <http://www.city.uonuma.niigata.jp/miyashuji>